

## まちがいがなし

2枚の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見つけてね。全問正解された方のうち、抽選で10人の方に図書カードもしくはクオカードをプレゼントします。

応募締切 8月14日(金)

とうふねこ座：市川雅子 画



## 応募方法

ハガキまたはファクスに①答え(左の絵に○をつける)②住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話番号⑥広報紙の感想、ご意見などを書いて秘書広報課(〒443-8600 FAX 66・1190)へ。なお、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

## 呪いのわら人形(蒲郡町部)

草木も眠る丑三つ時、家の軒も三寸下がると言われている。もちろん誰も歩いていない裏道。黒猫が塀の上を歩いている。と、ピクッと立ち止まった。暗闇の中から足音を殺して近づいてくる人影。

白装束をはおり、高下駄を履き、頭に三脚の五徳を乗せ、左右に火のついたろうそくを立てている。ゆれる炎の灯りで浮かび上がったその顔を見て黒猫が固まった！  
真つ白な美しい顔に、異様に太い隈取りの眉、口に願い文をくわえている。

黒猫があとをついて行くと、古いお社に入っていく、ご神木になにやらフツフツ鳴えながら打ち付けている。

そして、誰にも見られないように暗闇の中に消えていった。黒猫はご神木をぐるりとまわると2回大きなあくびをして、社殿の軒下に入ってしまった。

朝になって、近所の子どもが黒猫を追っかけて、お社に飛び込んできた。黒猫がご神木にかけ上がったので、子どももご神木の後ろに駆け込んだとたん、慌てふためいてお社を飛び出し、家へ走っていった。子どもたちの話を聞いてすぐに大人たちが集まり、ご神木のまわりは大騒ぎになった。

「こりゃあ呪いのわら人形じゃ」

「五寸くぎで打ち付けてあるぞ〜ぞぞぞぞ〜」

「誰がこんなことしたんじゃあ」

「それより、こんなに恨まれとるのは、いったい誰じゃろっ〜」

「ほんとう怖〜い」

ワイワイ・カヤカヤ・あーでもない・こーでもないと寄ってたかってみんなが騒いでいると、お巡りさんがやってきた。

そして、わら人形を取り除き、代わりに貼り紙を

1枚貼って行った。その貼り紙には、  
【なやみ事は、人事そつたんへどうぞ】

『それがいいニヤ〜』とひと鳴きして、黒猫は楠の枝で毛づくろいを始めた。もう1世紀も前のことでした。

## 【参考資料】

『西の郡の民話 ほんとのんほい』著者：足立

陸男

『蒲郡風土記』著者：伊藤天章

## ◆6月号の答え

